

ソマティクスにおけるダンス～エリック・ホーキンスからボニー・ペインブリッジ・コーエンへの系譜を辿る～

吉田美和子（上智大学文学部保健体育研究室）

【研究背景・目的】

近年、欧米のダンス教育に広く導入されてきたソマティクスには、Laban Movement Analysis/Bartenieff Fundamentals (LMA/BF)をはじめ、アレクサンダー・テクニクやフェルデンクライス・メソッドなど多様な動きの分析や身体教育法がある。ソマティクスは身体を物質としての身体 (Body) として客観的に捉えるのではなく、身体、心、スピリチュアリティを含む内側から経験されるからだ (Soma) として主観的に捉える現象学的学問領域でもあるが、その多様なアプローチ法のダンス教育における位置づけと実践のあり方をめぐっては、いまだ葛藤と模索が続いている。

Lobel & Brodie (2006) は、“Somatics in Dance-Dance in Somatics” でダンス教育とソマティクスの関係性について、両者の共通目的を動きの効率性の向上と表現力の拡大としているが¹、そこには身体の「動き」と「ダンス」との差異は何かという根本的な問いが含まれている。

本研究は、ダンス教育におけるソマティクスの位置づけという従来の視点を反転させ、ソマティクスにおけるダンスの意味と位置づけを、ボディマインド・センタリング (Body-Mind Centering[®]

: BMC) の開発者ボニー・ペインブリッジ・コーエンを対象として検討する。BMC はエリック・ホーキンスと LMA/BF の系譜上にあり、とりわけダンス教育にとって親和性が高いと M. エディ (2000) は指摘する²。自身もダンサーであり作業療法士でもあるコーエンが開発した BMC は体験的解剖学とも称されるソマティック教育の一つであり、筋骨格だけでなく神経や内臓、体液、内分泌など身体のあらゆるシステムを動きやタッチ、声や言語による対話を通して探究しエンボディ (embody) するアプローチである。

ホーキンスの身体観や思想、実践の系譜がどのようにソマティクスの学びに影響を与えているのか、BMC におけるダンスの位置づけを検討することは、ダンス領域におけるソマティクスの位置づけを逆照射する試みでもある。

【研究方法】

ホーキンス・テクニクやイデオキネシスの身体観や思想がソマティクスの学びとしての BMC の思想や実践にどのような影響を与えているのか、そこでダンスはどのような役割と位置づけにあるかを検討するため、先行研究を踏まえながら、

ホーキンスやコーエンの文献、およびコーエンと BMC のダンス関係者へのインタビューを実施し言説分析を行う。

【結果と考察】

コーエンがホーキンスに師事したのは1964年のサマープログラムからである。1966年から約10年間 I.パーティニエフに LMA を、A. バーナードや B. クラークを通じて M. トッドのイデオキネシスを学ぶなかで、彼らが教示する動きの原則と出会い、それまで動きのすべてだと信じてきたキネシオロジーの原則を捨て、新たな探究を始めたという。コーエンがホーキンスを通じて学んだものは、イデオキネシスの視点、動きの原則、動きと感受性 (sensitivity) や意識の向け方、東洋的身体観と美意識、そしてダンスのスピリットであった³。

ホーキンスの系譜を共有するコンタクト・インプロヴィゼーションの N. スターク・スミスとの対話において、コーエンは「動き」と「ダンス」の違いについて、晩年のホーキンスのエンボディメントされた質について語ることで答えている。それは骨や筋肉について理解しているとか、身体の可動域に関わるのではなく、見たものを開かせざるを得ない何かである。さらにソマティクスの学びにおいても、どれほど機能的に正確な動きが可能となってもそれだけでは大事なものが欠けているという。それはスピリットである。

BMC における身体組織や動きの学びは、視覚化、身体化、エンボディメントから成るが、エンボディメントの段階は時間・空間ともにオープンスペースとなりダンスによって統合される。コーエンはエンボディメントを主客の区別のない知る状態 (state of knowing) という直接経験であり、エンボディメントを語ることは「月を指す(楞嚴経)」ようなものであると語っている。

ソマティクスにおけるダンスは、それがどのような微細な動きであれ、物質的な身体 (Body) からからだ (Soma) の学びへと変換する生きた営みである。ダンス教育において身体を表現の道具 (tool) ではなくスピリットと共に動くからだ (Soma) として捉えるとき、ダンスとソマティクスは出会いの場に立つことができるのだろう。

【引用参考文献】

1. Lobel, E. & Brodie, J. (2006) Somatics in Dance-Dance in Somatics. *Journal of Dance Education*. 6(3):69-71.
2. Eddy, M. (2000) Somatic Practices and Dance: Global Influences. *Dance Research Journal*. 34(2):46-62.
3. Bainbridge Cohen, B. (2016) *Sensing, Feeling, and Action* (3rd ed.) Contact Editions.